

| | |
|-------------|---|
| 1 審議会名 | 塩田地域協議会 |
| 2 日時 | 平成29年6月15日(木) 午後1時30分から午後3時まで |
| 3 会場 | 塩田公民館 大ホール |
| 4 出席者 | 山極会長、山部副会長、阿部委員、伊藤委員、工藤委員、窪田委員、甲田委員、小林委員、坂田委員、竹内(榮)委員、竹内(弘)委員、竹下委員、龍野委員、早坂委員、林委員、本間委員 |
| 5 市側出席者 | 北沢センター長、土屋地域振興政策幹、佐藤主査 |
| 6 公開・非公開 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開 |
| 7 傍聴者 | 0人 記者 無 |
| 8 会議概要作成年月日 | 平成29年6月21日 |
| 協 議 事 項 等 | |

1 開会(副会長)

2 あいさつ(会長)

3 協議事項

(1)専門委員会の取組状況について

「地域振興委員会」

(委員会代表者)塩田地域の農産物直売所のあり方について検討しているが、6月9日に青木村の「道の駅あおき農産物直売所」を視察した。

平成16年に閉店したパチンコ店を改修して農産物直売所がオープンした。入客数や販売額が伸びる中、施設が手狭かつ老朽化していたことから平成28年度に青木村が国の事業を活用して改築し、平成29年4月にリニューアルオープンした。食堂等順次整備していく予定。

農産物直売所は「株式会社道の駅あおき」が運営している。通年営業で売上は年々増えているが、9月~10月に来客数や売上が多く、冬場は少ない。時間帯では午前中が多い。今後はこうした偏った状況を改善することが課題となっている。

地域振興委員会としては、今後、塩田地域の直売所関係者に先進地の状況について情報提供していきたいと考えている。

(委員)お客は地域外の人が多いのか、地元の皆さんに支えられているのか。

(委員会代表者)数字的には聞いていないが、村以外で川西地域の方は訪れているということである。また、直売所の生産者には筑北の方もいるとのことであった。

(委員)地元以外の品も取り寄せていると聞いたがどうであったか。

(委員会委員)加工品は地元以外のものもあった。

(委員) 客層については地元なのか、地元以外なのか分析する必要がある。

(委員) 塩田に新たに農産物直売所を整備する場合、どのようなタイプの直売所が好ましいと考えているのか。農産物に特化するようなタイプがよいのか、菓子類なども幅広く取りそろえたタイプがよいのか。

(委員会代表) まだ検討していない。

(会長) 塩田に新たに農産物直売所を整備する場合、立地条件や施設の規模などにより客層や品揃えなどが変わってくると思う。立地により客層などのターゲットや品揃え、施設規模などを検討する必要がある。また、農産物だけであると品揃えが不足する時期があるので加工品なども用意して通年営業できるようにしないと客に忘れられてしまう恐れがある。

「地域福祉・教育委員会」

(委員会代表者) 地域協議会委員を対象に行った「地域住民が長野大学や学生、上田市、企業等に期待するアンケート」の結果がまとまったので資料により報告する。

上田市が大学に期待することについては政策企画課から回答があり、資料に記載した。上田市に対しては、地域住民が大学にどのように関与して欲しいのか聞いてみたい。

今年度の新入生に対するアンケートは長野大学で実施しており、結果がまとまり次第、長野大学から提供いただくことになっている。

今後、企業に対して長野大学や学生に期待していることに関してアンケートを行う予定である。

(委員) 長野大学が推薦入試の地元枠を設けるとのことだが、地域内の学生を優遇すると地域外の学生がその分減ってしまうというのはいかがなものか。

(会長) 駒ヶ根市に県立の看護大学があるが、地元枠を設けていないことから、県が県民の税金で整備したにもかかわらず県内出身者は1割ほどしかいないようである。県としても地元の学生を増やしたいと思うのは当然のことではないか。長野大学にもそれが言えるのではないか。地元枠に関して上田市としての考えはあるのか。

(事務局) 担当課ではないので詳細はわからないが、上田市が策定した長野大学の中期目標では地元枠を設けて進学の機会を確保することとしており、大学に要請していることでもある。このため、長野大学は市の意向に沿って対応しているものと個人的には考えている。

「地域環境保全委員会」

(委員会委員) 竹藪の解消に向けて五加地区で取り組んでいる「産川竹藪活性化クラブ」の活動について報告する。五加地区では竹藪が荒廃化して地域の課題になっており、これを地域の資源として活用できないかということで昨年4月から竹藪の整備などの活動を始めた。

竹粉及び竹チップの販売だけでは採算が厳しく、今年からタケノコも商品として販売することで事業の採算がとれるようになった。今年の冬には整備した竹林において、竹を伐採して竹材料や炭として活用したいと考えている。

「地域安心・安全委員会」

(委員会代表者)3月に行った「自治会における自主防災に関するアンケート」の集計結果を報告する。33自治会から回答があった。自主防災組織は約9割の自治会で編成されているが、機能的な組織になっていない。これは自主防災組織が自治会役員を主体に構成されているため、1年ごとに関係者が交代してしまうことによる。

特に、平日の昼間に災害が発生した場合、自主防災組織が編成されていても機能しない状況にある。また、危険個所の点検も自治会長等が行うケースが多く、自治会長等の負担が大きい。災害発生時の伝達手段は、有線放送が廃止された中で、電話や声掛けが多く、住民に対して一斉に伝達する手段が乏しい。

市では自主防災組織リーダー研修会を毎年自治会長中心に開催しているが、自治会長の負担が大きくなっていると感じている。

住民自治組織「塩田まちづくり協議会」が設立されたことから、この組織の取組に位置付けていくことも必要ではないかと考えている。

(2)その他

なし

4 その他

- ・第2回 わがまち魅力アップ応援事業(塩田地域対象)の応募状況について事務局から応募は新規1件で、次回の地域協議会でプレゼンテーション及び審査を行う旨説明する。
- ・「生ごみリサイクル交流会 in 上田」について事務局より7月9日(日)午後1時から塩田公民館で開催される旨説明する。
- ・次回は7月21日(金)午後3時30分から開催することに決定。

5 閉会(副会長)

終了後、専門委員会ごとに打合せ